

中年期の首尾一貫感覚が選択最適化補償方略を介して 精神的健康に影響するプロセスの検討

土橋 果歩

本研究では、中年期に首尾一貫感覚(SOC 感覚)が選択最適化補償方略(SOC 方略)を介して精神的健康(WHO-5)に影響を与えるプロセスの検討を行った。重回帰分析によって SOC 感覚から WHO-5 への直接効果および SOC 感覚から SOC 方略を介した WHO-5 への間接効果を調べたところ、直接効果および SOC 方略を介した間接効果は有意でなく、SOC 方略下位因子である LBS(損失ベースの選択)を介したネガティブな間接効果のみが有意であった。このことから、中年期において、SOC 感覚は精神的健康にポジティブな影響を与えるが、そのプロセスにおいて SOC 方略によるポジティブな媒介効果はないことが示された。また、SOC 方略の下位方略ごとの媒介効果を確認したところ、損失ベースの選択(LBS)は、SOC 感覚から精神的健康への影響を媒介して精神的健康にネガティブな影響を与えることが示された。今後は、SOC 感覚と SOC 方略が WHO-5 に与える影響と、SOC 感覚や SOC 方略が抑うつや well-being などの WHO-5 以外の精神的健康尺度に与える影響との影響と相違を分析するほか、縦断研究によって損失や資源の低下を変数として加えて SOC 感覚が SOC 方略を介して精神的健康に与える影響の有無を調べる必要がある。(臨床死生学・老年行動学)